



大野城市【福岡県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：100,597人 ■市域面積：27km²
■担当課：大野城市教育委員会ふるさと文化財課（平成31年3月現在）



大野城市には、特別史跡水城跡・大野城跡、史跡牛頸須恵器窯跡が所在し、古代国防の最前線を担うとともに土器生産の一大拠点であった。また地理的特性から交通・交流の要衝であり、様々な文化財に恵まれている。これらの文化財を地域の資源・宝として活かし、まちづくり、人づくり、にぎわいづくり、そしてふるさと意識の醸成につなげるための計画である。

5 歴史文化を表す つのキーワード

国防の最前線、交流の要、須恵器づくり、
水と農、交通の要衝

課題

- ・未指定文化財の把握
- ・文化財の毀損・経年劣化
- ・関連団体等との連携
- ・情報発信の手法

保存活用方針

- ・未指定文化財の把握とデータベース化
- ・効果的な史跡整備と活用
- ・市民・関連団体等との連携強化

保存活用のための取り組み

市民参加型の文化財調査の実施

市内を4つの地区に分け、市民参加型の文化財調査を進める。市民参加を募ることで、効果的な情報収集および参加者自身が地域の魅力を再発見する機会につなげていく。また、成果はデータベース化し、積極的な情報発信を行う。



水城跡・牛頸須恵器窯跡の保存整備事業の推進

「特別史跡水城跡保存整備基本設計」「牛頸須恵器窯跡整備基本設計」に基づき、整備事業を進めている。特に水城跡は、太宰府市にまたがる史跡であることから、太宰府市および福岡県・九州歴史資料館と連携して事業を実施していく。



ボランティアガイドの育成、関連団体との連携強化

平成23年度から実施している史跡ガイドボランティアの育成事業を引き続き行い、史跡案内の充実と地域に根ざした人材発掘を進める。また既存の文化財関連団体への支援・連携強化を図るとともに、新規団体の設立を促していく。



大野城心のふるさと館の活用

平成30年7月に開館した大野城心のふるさと館を情報発信の拠点として活用する。展示や講座だけではなく、館で行われる各種事業の集客力・発信力を活かしながら、より効果的に文化財の魅力を伝えていく。



関連文化財群



大野城市は、福岡平野と筑紫平野をつなぐ地理的要衝に位置し、古くから官道や街道を通じて多くのモノや人、情報が往来した。また弥生時代以来、中国大陸との交流を示す資料が多く確認されるなど、様々な地域と有機的なつながりを持つ歴史文化を育ててきた。

こうした歴史文化の特色をもとに、関連文化財群の全体テーマを「つなぐ つながる 大野の里の物語」とし、下に示す個別テーマ・ストーリーを設定した。

ストーリー

- ① 国防の最前線
- 水城跡・大野城跡をめぐる物語 -
- ② 交流の要
- 乙金山麓の古墳群と関連遺跡群 -
- ③ 土器づくりの村
- 牛頸須恵器窯跡群とその周辺 -
- ④ 水の恵みと暮らし
- 御笠川水系とため池群 -
- ⑤ 交通の要衝
- 日田往還周辺の賑わい -

策定後の成果（見込まれる効果）

① **地域の文化財の魅力向上**
水城跡などの指定史跡に比べて、地域に残されている未指定文化財の認知度は極めて低い。こうした未指定文化財を、関連文化財群のストーリーの一部として再評価することで、各文化財の魅力向上につながった。こうした関連文化財群を「地域の魅力」として位置づけることで、より効果的な情報発信が見込まれる。



② **市民・関連団体と連携した保存活用**
これまで、文化財関連団体との連携を行い、「水城跡のあかり」などの活動を支援してきた。今後、更なる情報交換や支援を通じて、連携する関連団体数を増加させる。関連団体の増加・充実によって、多くの市民が文化財の保存活用に参画することが見込まれる。



③ **各史跡と拠点施設の有機的な連携**
近年、水城跡、牛頸須恵器窯跡、小水城跡、大野城跡登山道、善一田古墳群などの史跡整備を行った。また平成30年7月には大野城心のふるさと館が開館した。今後、ふるさと館を情報発信の拠点としながら、各史跡間、および館と史跡の連携を強めることによって、回遊利用者の増加が期待される。

